



# 中間事業報告書

第**139**期

自 平成17年4月 1 日  
至 平成17年9月30日

 古河機械金属株式会社

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第139期中間期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の決算の概況などにつきましてご報告申し上げます。

当中間期の我が国経済は、設備投資の増加基調が継続したことに加え、雇用環境の改善を背景に個人消費も持ち直しに転じるなど、景気は緩やかな回復傾向をたどりました。

このような経済環境の下、当社グループは、今年3月に中核事業部門を分社化して事業持株会社体制へと移行し、グループとしての一体性を維持しつつ、各中核事業会社が機動的な経営を進め、グループ全体の企業価値の最大化を目指すという新たな体制のもとで、当年度のスタートをきりました。当年度はまた、中期計画の初年度でもあり、機械製品の海外展開と高付加価値素材製品の開発を積極的に進め、収益の拡大による早期復配の達成と財務体質の改善に向けて一丸となって鋭意努力いたしました。

当社グループの当中間期の業績は、機械部門では、ロックドリル製品が海外売上の好調により、また、ユニック製品が普通トラックの販売台数増加に伴う需要増によりそれぞれ増収となり、営業利益の増加に貢献いたしました。金属部門では銅価の高騰と買鉱条件の改善により大幅な増収、増益となりました。

この結果、当中間期連結売上高は、825億68百万円（対前年同期比131億75百万円増）となり、営業利益は51億89百万円（対前年同期比19億96百万円増）となりました。経常利益は46億50百万円（対前年同期比25億67百万円増）となり、当中間純利益は18億84百万円（対前年同期比9億78百万円増）となりました。

当期の中間配当につきましては、誠に遺憾ながら行いませんので何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

下半期の国内経済は、国内民間需要に支えられた景気回復が続くものと見込まれますが、原油価格の高止まり、米国景気の減速懸念等のリスク要因を抱えており、先行き予断を許さない状況であります。

このような経営環境の中、機械部門は、ロックドリル製品及びユニック製品が概ね上期の好調を持続する見込みであり、産業機械製品も官公庁向けの売上計上により上期に比べ増収を見込んでおります。

当社グループは、機械製品では、ロックドリル製品、ユニック製品を中心に海外展開を積極的に図ってまいります。素材製品では、デジタル化市場及びオプト市場に向けた高付加価値の結晶製品の開発と市場投入を図ってまいります。

これらにより平成19年度の目標連結営業利益105億円達成を目指します。また、引き続き資産の圧縮に努め、平成17年度からの3年間で300億円の有利

子負債の削減を目指すとともに、内部留保の増大を図り、早期の復配を目指して鋭意努力してまいります。豪州銅製錬子会社（PKC）社につきましても、売却等により今後の負担の最小化に努めてまいります。

なお、今般、公正取引委員会から、鋼橋上部工事に関し、独占禁止法違反として排除勧告を受けました。当社は、今回の事態を厳粛に受け止め、再発防止のため、当社グループ全体にわたるコンプライアンスの徹底や内部管理体制の強化に取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後とも宜しくご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

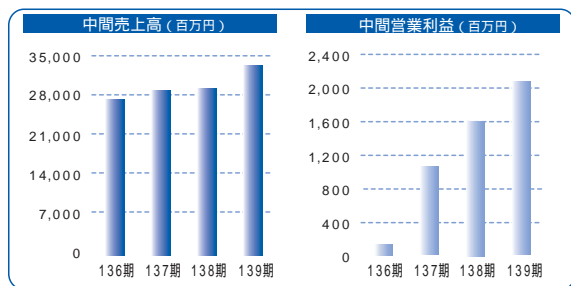
平成17年12月



代表取締役社長

吉野 哲夫

## 機械部門



産業機械製品は、売上高は大口環境関連物件の売上計上により増収となりましたが、原材料価格の上昇と販売面での価格競争激化により、損益的には厳しい状況が続きました。

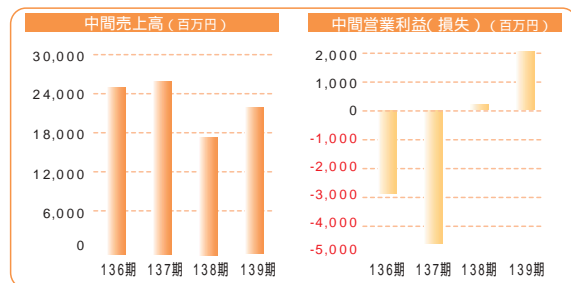
ロックドリル製品は、国内では需要は依然として低水準で推移する中、販売強化によるシェア拡大に注力し、ブレーカや圧砕機の売上は前年同期を上回りました。しかしながら、国内シェアの高いクローラドリルやドリルジャンボの売上については公共工事減少の影響を受け、対前年同期若干の減少となりました。

一方、海外では、米国、欧州、中東市場を中心に出荷が好調で売上を伸ばすことができ、米国、欧州主要各国では、ブレーカ販売が高い伸びを示し、クローラドリルも着実に販売実績を増やしました。原油高に支えられた中東市場でも、積極的な営業活動が功を奏し、特にクローラドリルが増収となりました。アジア地区では、東南アジアで順調に売上を伸ばすことができました。

ユニック製品は、排ガス規制等による普通トラックの販売台数増により、ユニッククレーンの国内販売は出荷増となりました。海外市場では、米国、欧州向けが順調に伸びております。また、中国泰安市の現地生産販売合弁会社は、現地生産比率を高めて更なるコストダウンを推進するため、今般、設備投資を決定いたしました。ユニッククレーン以外の製品では、ユニックキャリアが需要増により増収となり、ミニクローラクレーンも新機種を投入し製品の充実を図ったことにより販売は順調に伸びました。

この結果、機械部門の売上高は330億69百万円（対前年同期比39億83百万円増）、営業利益は20億70百万円（対前年同期比4億73百万円増）となりました。

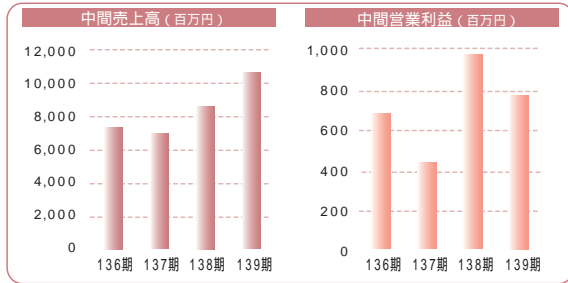
## 金属部門



電気銅の海外相場は、中国等の実需の伸びに加え投資ファンドの資金が流入したため、期を通じて高値で推移し、国内建値も当中間期平均で44万円/トン、対前年同期比8万円/トンの上昇となりました。銅価の高騰が継続していることを背景に、大手鉱山の増産、休止鉱山の再開といった動きがみられる一方、一部製錬所の増強増産計画の立ち上げの遅れがみられ、結果として鉱石の余剰感がでるまでになりました。これを反映して買鉱条件は製錬側にさらに有利な条件に改善されました。また、銅価格の大幅な上昇によって価格に比例する部分の買鉱条件が大きく改善し、さらに為替も円安基調に推移したため、製錬収支は大幅な増益となりました。

金属部門の売上高は218億98百万円（対前年同期比45億18百万円増）、営業利益は20億47百万円（対前年同期比18億43百万円増）となりました。

## 電子化成品部門

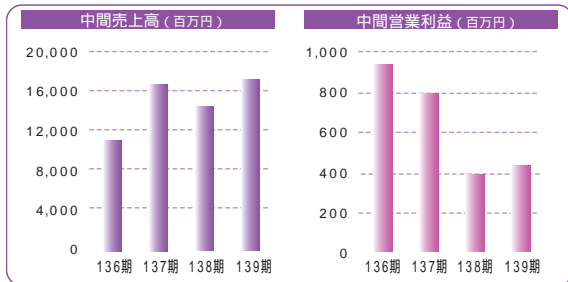


高純度金属ヒ素は、主用途のガリウムヒ素半導体が、DVD機器の在庫調整等で需要が低迷したことにより、出荷減となりました。仕入れ販売の電解コンデンサ用アルミ箔は、デジタル機器のコンデンサ需要増により売上は大幅に増加し、ゲルマニウムを使ったコンディショニングジュエリーも需要増により大きく売上を伸ばしました。

船底塗料の原料である亜酸化銅は、銅価の高騰により販売単価が大幅に上昇したことにより増収となり、下水処理剤のポリ硫酸第二鉄溶液は官公庁向け出荷増により増収となりました。

電子化成品部門の売上高は105億67百万円（対前年同期比20億67百万円増）、営業利益は7億64百万円（対前年同期比2億3百万円減）となりました。

## 不動産・燃料その他の部門



不動産部門の主力事業であるオフィスビル市場は、テナント需給に改善の動きはみえるものの、賃料水準はなお反転するには至っておりません。このような状況の中、前期末に「古河千代田ビル」を売却したことにより減収、減益となりましたが、新規テナント獲得による空室の減少と経費削減に努めました。

燃料部門では、原油市況が4月以降概ね上昇基調にあった中、8月には米国の大型ハリケーンの影響もあり、史上最高値を更新する相場が継続しました。国内でも、石油元売り各社の値上げが続きましたので、安定供給と価格は正に努めました。

不動産・燃料その他の部門の売上高は170億33百万円（対前年同期比26億5百万円増）となり、営業利益は4億28百万円（対前年同期比43百万円増）となりました。

## 古河ユニック（株）

### ユニック『ミニクローラクレーン』最小クラスを開発

トラックの入り込めない狭い現場や屋内作業に適したユニックミニクローラクレーンのラインナップとして、小型機種『UR-U104CRS』を新たに開発し、販売を開始しました。

本機は、ユーザーからの要望が強い小型機種で、全幅・全長・全高ともクラス最小で、重量もクラス最軽量を実現しました。

今回の開発により、海外向け販売が好調である「UR-W295CRS」に加え、ミニクローラクレーンのラインナップがさらに充実しました。



### 万能スタンダードキャリア フルモデルチェンジ

小型トラック架装用スタンダードユニックキャリアをフルモデルチェンジし、『ユニックキャリアUC-28EX』として販売を開始しました。

本機は好評を得ている「ユニックキャリアNEO5」の普及版ではありますが、今般のフルモデルチェンジにより作業性や操作性等が大幅に向上したにもかかわらず、価格は据え置きというコストパフォーマンスを実現したことで、新規ユーザーを開拓し拡販を進めてまいります。



## 古河産機システムズ（株）

### 超微粉末製造機『ドリームミル』粉砕技術を利用した商品開発並びに加湿熱風技術を利用した殺菌・乾燥方式についての業務提携

気流式超微粉末製造機『ドリームミル』の技術を活用して遠州夢咲農業協同組合とコルソイデア株式会社の3社共同で「体内吸収緑茶」の開発を行いました。

「体内吸収緑茶」は、茶葉の持つ栄養価をそのまま手軽に丸ごと摂取するというコンセプトを基に開発された商品で、当該商品の微粉末化技術にドリームミル粉砕技術が活用されています。

『ドリームミル』粉砕技術は、既存の粉砕方式に比べ、熱の発生を低く抑え被粉砕物の物性の変化を起こさずに超微粉末を製造することができ、その微粉末は丸みを帯びる特徴が



あるため、粉末に滑らかさをもたらす効果があります。

さらに、「加湿熱風技術を利用した殺菌及び乾燥方式」に関して企業組合静岡機械製作所他と業務提携契約を締結し、ドリームミルのビジネス拡大を図ることとしました。

今般の業務提携により、加湿熱風技術を利用した殺菌・乾燥方式を取り入れ、共同で市場ニーズに対応した事業展開を進め、商品開発のサポート等も行っていく予定であります。



## 古河機械金属（株）

### 高出力全固体黄色レーザを開発

590nmの波長で高出力発振する全固体黄色レーザを千葉大学工学部情報画像工学科 尾松孝茂助教授と共同開発しました。

当社が高出力炭酸ガスレーザなどで培ってきたコーティング技術によって、KGW結晶中でのラマン光発生効率を向上させることができ、さらに、結晶や共振器に用いるミラーの研磨やコーティングの改良を重ね、レーザ損傷を低く抑えることができたことも高出力化に繋がっています。また、構成部品が全て固体で、かつ小型でメンテナンス容易なレーザを実現しました。

今後、バイオ・医療分野や環境ガス計測、あるいはディスプレイなど幅広い分野に需要が見込まれ、レーザメーカーであるネオアーク株式会社と協力して製品化を進めております。



### 複合木材事業 工場操業式

現在、福岡県添田町にて進めております複合木材事業の工場操業式を、当社吉野社長、麻生福岡県知事、山本添田町長参列のもと執り行いました。今後は、量産体制を確立し、早期の安定的出荷を目指してまいります。



### 環境・社会報告書2005を発刊

環境保全活動ととりまとめた「2005年環境・社会報告書」を発行いたしました。今後も、記載内容の更なる充実を図り、ステークホルダーの皆様へ「読んでいただける報告書」を目指し追求していきます。



## 営業品目（古河機械金属グループ）

### 機械部門

#### 産業機械（古河産機システムズ（株））

##### 【環境設備】

電気集じん機、バグフィルタ、ダイオキシン除去装置、焼却プラント、焼却灰熔融骨材化プラント、炭化装置、リサイクルプラント車、発泡スチロール減容機、各種水処理施設、農・漁業集落排水処理施設、汚泥肥料化装置、生ごみ処理機、気流式超微粉末製造機、スラリーポンプ、汚泥ポンプ、清水ポンプ、水中汚泥ポンプ、一軸スクリーパーポンプ、泥水シールド用ポンプ、スクリーパー攪拌機、ポンププラント設備、緑化基盤材「e-Greenポット」

##### 【プラント】

各種コンベヤ設備、貯蔵払出設備、砕石設備、各種破砕機、粉砕機、スクリーン、フィーダ、クラッシャー、分級機、廃車処理装置、パンコンベヤ、アルミ剪断設備

##### 【立体駐車装置】

自走式（高層エレベータ式、垂直循環式、各種多段式）駐車場システム

##### 【橋梁】

鋼橋梁、ゲート、鉄骨、その他鋼構造物

#### 【鑄造品】（古河キャストック（株））

高マンガン鑄鋼、高クロム鑄鉄、サベルレインフォームメント鑄物、低合金鑄鋼、特殊耐摩耗鑄物

#### 【IT関連装置】

デジタルデータ秘匿化技術、位置測位システム

#### ユニック（古河ユニック（株））

ユニッククレーン、ユニックキャリア、折り曲げ式クレーンユニックバル、ユニッピー、ミニクローラクレーン、ユニックライト、船舶架装用ユニッククレーン、敷板鋼板用マグネット

#### ロックドリル（古河ロックドリル（株））

##### 【さく岩機】

さく岩機、クローラドリル、トンネルドリルジャンボ（ホイール式、クローラ式、その他）トータルワークステーション、ブレーカ、ハンドブレーカ、コンクリート圧砕機、ミニ杭打機、コンクリート吹付機、油圧開孔機

##### 【建設機械】

ホイールローダ、ブルドーザ、油圧ショベル、除雪ドーザ、スノーローダ、路面清掃機、振動ローラ、タイヤローダ、マカダムローダ、深礎基礎掘削機、パワーチップパー

### 金属部門（古河メタルリソース（株））

銅、金、銀、硫酸等

### 電子化成品部門

#### 電子（古河電子（株））

高純度金属ヒ素、ガリウムリン多結晶、インジウムリン多結晶、X線シンチレーター用材料、有機金属、高純度酸化ビスマス、半導体ガラス、赤外線透過ガラス、ノイズフィルター用コイル、チョークコイル、窒化アルミセラミックス、レーザ用レンズ・ミラー、医療用具（貼布型接触針）、装飾品、半導体製造装置、アルミニウム中空ファイバー、サブマウント基板

#### 化成品（古河ケミカルズ（株））

酸化チタン、硫酸、亜酸化銅、酸化銅、ポリ硫酸第二鉄、チタンカーバイド、硫酸バンド、サファイア基板、亜硫酸ソーダ、硫酸第一鉄

### 不動産部門（古河機械金属（株））

所有ビルの賃貸、不動産の仲介斡旋

### 燃料部門（古河機械金属（株））

重油、揮発油、軽油、灯油、潤滑油、LPG、コークス

# 連結決算の概要

## 連結貸借対照表

科目	当中間期	前期
	平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	78,607	92,196
現金及び預金	16,725	29,806
受取手形及び売掛金	31,951	33,328
たな卸資産	25,837	23,338
その他	4,532	6,111
貸倒引当金	439	387
固定資産	114,689	112,454
有形固定資産	73,368	73,197
建物及び構築物	14,545	14,927
土地	47,000	47,281
その他	11,822	10,987
無形固定資産	96	109
投資その他の資産	41,223	39,147
投資有価証券	31,446	28,977
その他	11,715	12,177
貸倒引当金	1,938	2,007
資産合計	193,297	204,651

(単位:百万円、単位未満切捨表示)

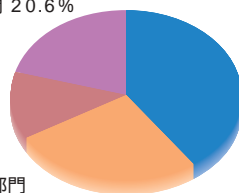
科目	当中間期	前期
	平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	85,709	104,439
支払手形及び買掛金	25,357	25,729
短期借入金	40,094	41,410
一年以内償還予定の社債	6,000	25,196
賞与引当金	106	113
その他	14,151	11,988
固定負債	80,951	76,427
社債	4,600	5,600
長期借入金	50,130	44,644
その他	26,220	26,183
(負債合計)	166,660	180,867
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	7,917	7,550
<b>資本の部</b>		
資本金	28,208	28,208
利益剰余金	891	2,871
土地再評価差額金	4,284	4,387
その他有価証券評価差額金	3,411	2,026
為替換算調整勘定	446	404
自己株式	12	11
(資本合計)	34,554	31,335
負債、少数株主持分及び資本合計	193,297	204,651

### 売上高構成比

不動産・燃料その他の部門 20.6%

電子化成品部門 12.8%

金属部門  
26.5%



機械部門 40.1%

### 有利子負債

有利子負債（ファイナンス・リース債務を含む）残高は、1,062億円で前期末に比べ、157億円削減いたしました。



## 連結損益計算書

(単位:百万円、単位未満切捨表示)

科目	当中間期	前年中間期
	自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
売上高	82,568	69,393
売上原価	69,205	58,539
売上総利益	13,362	10,853
販売費及び一般管理費	8,173	7,661
営業利益	5,189	3,192
営業外収益	1,223	664
営業外費用	1,761	1,774
経常利益	4,650	2,083
特別利益	18	7
特別損失	1,132	788
税金等調整前中間純利益	3,536	1,301
法人税、住民税及び事業税	1,334	254
法人税等調整額	100	279
少数株主利益(は損失)	216	138
中間純利益	1,884	906

## 連結剰余金計算書

(単位:百万円、単位未満切捨表示)

科目	当中間期	前年中間期
	自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	-	29,534
資本剰余金減少高	-	29,534
資本準備金取崩額	-	29,534
資本剰余金中間期末残高	-	-
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	2,871	50,390
利益剰余金増加高	1,987	30,638
資本準備金取崩額	-	29,534
土地再評価差額金取崩額	102	197
中間純利益	1,884	906
利益剰余金減少高	6	8
役員賞与	6	8
利益剰余金中間期末残高	891	19,760

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円、単位未満切捨表示)

科目	当中間期	前年中間期
	自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損益(損失:)	3,536	1,301
減価償却費	1,296	1,582
減損損失	301	-
退職給付引当金の増減額(減少:)	438	-
売上債権の増減額(増加:)	1,434	4,392
たな卸資産の増減額(増加:)	2,410	2,908
仕入債務の増減額(減少:)	214	2,799
その他	173	1,081
(小計)	4,985	8,250
利息及び配当金の受取額	327	296
利息の支払額	1,147	1,066
その他	671	3,697
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,494	3,783
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,140	1,428
有形固定資産の売却による収入	-	364
投資有価証券の売却による収入	573	-
投資有価証券の取得による支出	58	29
その他	186	844
投資活動によるキャッシュ・フロー	439	249
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	3,412	6,188
短期借入れの返済による支出	6,737	6,889
長期借入れによる収入	15,500	14,025
長期借入金返済による支出	8,442	7,847
社債の償還による支出	20,196	-
その他	11	633
財務活動によるキャッシュ・フロー	16,474	4,843
現金及び現金同等物に係る換算差額	158	247
現金及び現金同等物の増減額(減少:)	13,260	8,129
現金及び現金同等物の期首残高	26,608	19,454
現金及び現金同等物の中間期末残高	13,347	27,584

# 単独決算の概要

## 貸借対照表

(単位:百万円、単位未満切捨表示)

科目	当中間期	前期
	平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	18,107	35,856
固定資産	116,409	114,909
有形固定資産	23,996	24,326
無形固定資産	19	21
投資その他の資産	92,394	90,561
資産合計	134,517	150,766
<b>負債の部</b>		
流動負債	43,899	67,370
固定負債	53,282	48,361
負債合計	97,182	115,731
<b>資本の部</b>		
資本金	28,208	28,208
利益剰余金	1,573	499
土地再評価差額金	4,284	4,387
その他有価証券評価差額金	3,281	1,950
自己株式	12	11
資本合計	37,334	35,034
負債・資本合計	134,517	150,766

## 損益計算書

(単位:百万円、単位未満切捨表示)

科目	当中間期	前年中間期
	自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
<b>経常損益の部</b>		
(営業損益)		
売上高	18,606	57,889
売上原価	15,173	52,170
販売費及び一般管理費	1,608	3,584
営業利益	1,824	2,134
(営業外損益)		
営業外収益	1,346	1,204
営業外費用	1,421	1,580
経常利益	1,748	1,757
<b>特別損益の部</b>		
特別利益	17	0
特別損失	520	330
税引前中間純利益	1,246	1,427
法人税、住民税及び事業税	8	22
法人税等調整額	266	526
中間純利益	971	877
前期繰越利益(は損失)	499	16,542
土地再評価差額金取崩額	102	197
中間未処分利益(は未処理損失)	1,573	15,466

# 株式の状況及び会社概要

## 株式の状況 (平成17年9月30日現在)

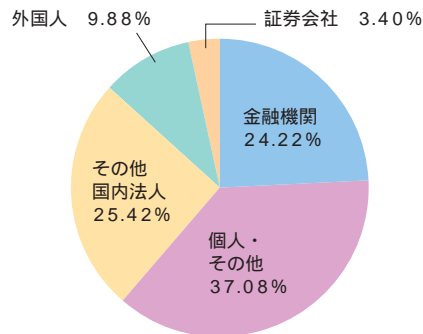
### 株式

会社が発行する株式の総数	800,000,000株
発行済株式の総数	404,455,680株
株主総数	35,013名

### 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
朝日生命保険相互会社	27,923千株	6.90%
清和綜合建物株式会社	18,034	4.45
株式会社損害保険ジャパン	13,810	3.41
昭栄株式会社	12,045	2.97
中央不動産株式会社	11,833	2.92
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,228	2.52
株式会社みずほコーポレート銀行	9,928	2.45
富士通株式会社	9,617	2.37
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機ホールディングス株式会社	8,620	2.13

## 株式所有者別分布の状況



## 会社概要 (平成17年9月30日現在)

**古河機械金属株式会社**  
FURUKAWA CO., LTD.

創業 明治8年8月

設立 大正7年4月

資本金 28,208,182,500円

従業員数 2,266名(連結) 195名(単独)

主な事業(古河機械金属グループ)

産業機械工業 土木建設業 非鉄金属製錬業

電子材料工業 化学工業 不動産業 燃料販売業

### 主な事業所

#### 本社

東京都千代田区丸の内2-6-1(古河総合ビル)  
(03)3212-6570

#### 支社・支店・事業所

大阪支社 東北支社 九州支店 札幌支店  
名古屋支店 足尾事業所

#### 研究所

技術研究所 素材総合研究所

#### グループ中核事業会社

古河産機システムズ(株) 古河ロックドリル(株) 古河ユニック(株)  
古河メタルリソース(株) 古河電子(株) 古河ケミカルズ(株)

## 取締役及び監査役 (平成17年9月30日現在)

代表取締役社長	吉野 哲夫
専務取締役	浅田 功
専務取締役	植松 敏勝
常務取締役	戸田 耕二
常務取締役	山下 南海男
取締役	古河 潤之助
取締役	小長谷 保平
取締役	塩飽 博以
常勤監査役	石井 毅
常勤監査役	大沼 良次
監査役	長尾 憲治
監査役	山田 外茂雄

## 執行役員 (平成17年9月30日現在)

専務執行役員	浅田 功	執行役員	新井 俊彦
専務執行役員	植松 敏勝	執行役員	小倉 康宏
常務執行役員	戸田 耕二	執行役員	中村 晋文
常務執行役員	相馬 信義	執行役員	宮田 雅文
常務執行役員	山下 南海男	執行役員	才津 武二
上級執行役員	小長谷 保平	執行役員	中川 敏一
上級執行役員	塩飽 博以	執行役員	加藤 洋一郎
上級執行役員	武内 幸夫	執行役員	松本 敏雄
		執行役員	富山 安治
		執行役員	岩崎 誠学
		執行役員	座間 学

# FURUKAWA CO.,LTD.

東京都千代田区丸の内2-6-1（古河総合ビル）

電話（03）3212-6570

<http://www.furukawakk.co.jp>

## 株主メモ

本社  
東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 〒100-8370  
電話（03）3212-6561（法務部）

決算期  
3月31日

定時株主総会  
6月

基準日  
3月31日  
その他必要により取締役会で決議した日

配当金受領株主確定日  
3月31日及び中間配当金の支払いを行うときは9月30日

公告掲載のホームページ  
<http://www.furukawakk.co.jp>  
（ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。）

貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページ  
<http://www.furukawakk.co.jp/bspl/index.html>

1単元の株式数  
1,000株

名義書換代理人  
東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱所（郵便物送付先及び電話照会先）  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話（03）3323-7111（代表）

同取次所  
中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店・全国各支店

（お知らせ）  
住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙ご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。



古紙配合率100%再生紙を使用